

競え、自転車。



公益財団法人 JKA
Japan Keirin Autorace foundation

〒108-8206

東京都港区港南1丁目2番70号 品川シーテラス25階

TEL:03-4226-3509 / FAX:03-4329-1801

競輪の収益金は、幅広く社会に活用されています。

競輪は、
進化する
スポーツだ。

2019年7月17日

公益財団法人 JKA

【イベントレポート】

世界で活躍する競輪選手の育成拠点がついに完成！ 「JKA250 落成式」開催

～国際基準の屋内木製250mトラックで初走り！
迫力のデモレースで現役日本人メダリストと世界の強豪選手が激走！～

日本競輪選手養成所では、世界で活躍する競輪選手の育成を目的として建設した、国内では2例目となる国際基準に準じた木製の屋内250mトラック「JKA250」(静岡県伊豆市、日本競輪選手養成所)が完成したことを記念し、本日7月17日(水)に「JKA250」において落成式を実施いたしました。

この木製トラックは、フィンランド産モミの木を原材料とし、世界でも指折りのカナダ人トラックデザイナー、ピーター・ジュネック氏監修のもと、着工から11ヵ月を経て完成したもので、今後、当トラックは、競輪選手候補生だけでなく自転車ナショナルチームのトレーニング拠点の1つとなります。

当日は、主催者の公益財団法人 JKA 会長 笹部俊雄が「JKA250 が来るべき時代の競輪選手養成の聖地となるべく、先達の知恵と努力が築き上げてきたものを継承しながら、歴史ある日本の競輪から次代のケイリンへ、バトンをつなぐ役割を果たしてほしい」と挨拶しました。

また、来賓の静岡県副知事の土屋優行氏は、JKA250 と同じ施設内にある伊豆ベロドロームで TOKYO2020 の自転車競技が行われることに触れ、「五輪後は、日本サイクルスポーツセンターを自転車トレーニングビレッジにする構想がある」と語り、「選手のみならず、子供から大人まで自転車が大好きな方が楽しめる場所になるためには、国際基準に準じた2つのトラックが近距離にあることが大きな力になる。選手の育成強化につながると同時に、この地が自転車のメッカになることを期待しています」とお祝いの言葉を頂戴しました。

その後、関係者によりトラックの完成を祝うテープカットが行われ、式典に続いて、2019 世界選手権銀メダリストの新田祐大選手や2018年ワールドカップ金メダリストの脇本雄太選手ら現役日本人メダリストと、オランダのマティエス・ブフリ選手やロシアのデニス・ドミトリエフ選手、そして当日発表されたシークレット・ライダーのジェイソン・ニブレットコーチらによるデモレースを開催。「夢のような豪華メンバーが揃いました」という日本自転車競技連盟 選手強化委員長 中野浩一氏の解説のもと、最大角度 42.8° のトラックで、男子ケイリンをはじめ、マッチスプリント 200m、スペシャルエキシビジョンレースなど、見応えのある勝負が繰り広げられました。



競え、自転車。



〒108-8206

東京都港区港南1丁目2番70号 品川シーサイド25階

TEL:03-4226-3509 / FAX:03-4329-1801

競輪の収益金は、幅広く社会に活用されています。

競輪は、
進化する
スポーツだ。

<イベントの様子>

現役日本人メダリストと世界の強豪選手による豪華競演 白熱のデモレースを制したのは河端朋之選手

式典後に行われた新トラックでのデモレース(ケイリン、マッチスプリント、200m フライング TT、スペシャルエキシビジョンレース)には、予定されていた新田祐大選手、脇本雄太選手、河端朋之選手、深谷知広選手、雨谷一樹選手、松井宏佑選手、小林優香選手、太田りゆ選手、マティエス・ブフリ選手(オランダ)、デニス・ドミトリエフ選手(ロシア)、日本競輪選手養成所選手候補生 3 名に加え、シークレット・ライダーとして、男子ケイリン ナショナル短距離コーチのジェイソン・ニブレットが登場。7 名が出場した男子ケイリンでは、最大角度 42.8° の傾斜のトラックで脚力を生かした迫力あるレースが展開され、最終コーナーで先行する松井選手らを追撃した河端選手が、鮮やかな逆転劇でレースを制しました。



レース終了後には、デモレースに参加した選手の中からナショナルチーム強化指定 A の選手による共同記者会見が行われ、「練習環境としての JKA250 の魅力」「東京 2020 に向けての意気込み」「伊豆ベロドロームと JKA250 の違いについて」などの質問に答えました。各選手を代表して、新田選手、深谷選手のコメントを次項に記載いたします。



新田祐大選手

「今までは常時屋内練習できる 250M バンクが日本になく、海外合宿が当たり前でした。今回、近距離に 2 つの 250M バンクができて、普段から世界基準のトラックに慣れた状況で練習できるのはとても良いことですし、僕自身、競輪学校(現: 日本競輪選手養成所)時代から感じていた海外との差が、養成所のうちから埋められるだけでなく、将来的には世界との差を広げること武器になるのではないかと感じています。競輪界、自転車競技の発展に大きく貢献する JKA250 によって、TOKYO2020 はもちろん、その先のパリ、ロサンゼルスに向けても非常に良い環境が整いました。今後、世界を代表する選手が、日本からたくさん誕生するのではないかと期待が大きく膨らみますね」。

深谷知広選手

「スプリントを走った感覚としては、ゴールラインがコーナーに近く、発走時もすごく傾斜があるところからのスタートになるので、その辺の対応が難しいかなという印象です。半径 1、2 キロの範囲内に、これだけ自転車のトラックが密集している施設は、自分が知る限り、世界にもないと思うので、これからの自転車選手が育つ良い環境が整ったと思います」。

競え、自転車。



〒108-8206

東京都港区港南1丁目2番70号 品川シーズンテラス25階

TEL:03-4226-3509 / FAX:03-4329-1801

競輪の収益金は、幅広く社会に活用されています。

競輪は、
進化する
スポーツだ。

<開催概要>

名 称: JKA250 落成式

日 時: 2019年7月17日(水) 11時50分~13時

会 場: JKA250 (日本競輪選手養成所)

実施内容:

・JKA250 オープニング式典 (JKA250 メイキング映像放映、主催者挨拶、来賓祝辞、テープカット)

・デモレース

<種目> ケイリン、マッチスプリント、200m フライング TT、スペシャルエキシビジョンレース

<出場選手>

ジェイソン・ニブレット コーチ (ナショナル短距離コーチ) ※シークレット・ライダー

新田祐大選手 (2019 世界選手権銀メダリスト) / 脇本雄太選手 (2018 ワールドカップ金メダリスト)

河端朋之選手 (2018 世界選手権銀メダリスト) / 深谷知広選手 (2019 アジア選手権金メダリスト)

雨谷一樹選手 (2018 アジア選手権金メダリスト) / 松井宏佑選手 (2019 モスクワグランプリ金メダリスト)

小林優香選手 (2018 ワールドカップ銅メダリスト) / 太田りゆ選手 (2019 ワールドカップ銀メダリスト)

マティエス・ブフリ選手 (オランダ) (2019 世界選手権金メダリスト)

デニス・ドミトリエフ選手 (ロシア) (2019 世界選手権銅メダリスト)

日本競輪選手養成所選手候補生 3 名

JKA は今後も、世界で活躍する競輪選手の育成と競輪の普及を目的とする、さまざまな取り組みを実施してまいります。